

# ニュー・エコノミーと労働・家族・国家 - 日米欧の比較ジェンダー分析 -

大沢 真理 (東京大学 社会科学研究所 教授)

## 【概要】

グローバル化、ニュー・エコノミー、そしてジェンダーが交差する様(さま)を解明する。これらは、現代社会を考察する上で「鍵」となる3大課題であり、3課題の交差 intersection の性質は、種々の論争で解析のマトになってきた。本研究は、4つの確立した研究領域における枢要な主張に挑戦するものである。すなわち、第一に、「労使関係と多様な資本主義」に対して、ジェンダー視点から批判的再検討をおこなう。第二に、「ジェンダー研究」に対しては、この分野で立ち上りつつある比較論争を発展させる。第三に「ニュー・エコノミー」論に対しては、そこでの概念化がこれまでジェンダーを顧慮しなかったこと問い直し、新たな概念化を行う。第四に「グローバル化」研究に対しては、そこで有力な単純な規制緩和説に挑戦する。グローバル化が規制緩和と「労働生活の質」の劣化を招くという言説に対し、ジェンダー視点では再規制化の過程も浮上するのであり、本研究はその複雑な動態に照明を当てる。グローバル過程による収斂と経路依存性による分岐を整理することを通じて、東アジア、米、欧のモデルを析出することができよう。

## 【期待される成果】

理論化と実証的比較分析の統合をめざす。対象4国(日米英独)は、今日の世界経済で大きな比重、相互に意味ある好対照をなしている。すなわち、「自由主義」的で市場主導型の英米と、「保守主義」的で国家主導組織化型の日独である。また、経済の規制緩和の舞台であり、同時に機会均等および労働と家庭生活の調和を目指す点においては再規制化の舞台であるEU(英独)に焦点を当てることで、日米を相対化できる。本研究では、対象各国を代表する労働・社会政策のジェンダー研究者が、すでに緊密なチームを形成しており、日本を中心的な対象とする国際比較を通じて、実証的のみならず理論的にも、高度の独創性を発揮できる。

## 【関連の深い論文・著書】

『男女共同参画社会をつくる』NHK ブックス、2002年、252頁

『福祉国家とジェンダー』(編著)明石書店、2004年、256頁。

【研究期間】 平成 16 ~ 18 年度

【研究経費】 61,700 千円

【ホームページ】

<http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/osawa/>